



『人生は出逢いである』 『われ以外、皆わが師』

税理士法人TACT高井法博会計事務所
TACTグループ関連十二社代表

税理士 高井 法博

新年明けましておめでとうございませう。旧年中も社員ともども大変お世話になり、誠にありがとうございます。さて、私事で恐縮ですが、昨年末にPHP研究所から、標題の書籍を発刊させていただきました。概略をご紹介します。

現在までの自分の人生を振り返ると、本当に多くの人と出逢い、また別れてきた。人と人との出逢いは運命的である。もしあの時ゴトウのヒヨコ創業者の後藤静一氏と出逢っていなかったら、高校で福井清兵衛先生と出逢い褒められながら簿記を教わっていなかったら、自分の人生はまるで違ったものになってしまっていたらと思う。幸運にも、物心付くころから生活保護を受けなければならぬような何もない中で、本當に多くの方々に出逢われ、教えられ、生かされてきた幸せを感じる。誰もが人生において多くの人に出逢う。しかし、折角のその出逢いを自らの人生に活かす人がどれだけあるだろうか？

一・人生は『一期一会』である。

『そもそも茶の交会是、一期一会といいて、たとえ、幾たびおなじ主客と交會するも今日の会に再びかえらざることを思

えば、実にわれ一世一度の会なり』これは、井伊直弼の著書『茶湯一会集』の中に出てくる熟語である。この意味は、一期とは生涯、一会とはただ一度の出逢いということである。過去何度も会って来たとしても、今日のこの機会は二度とない一生一度の出逢いなのだ。同じ人に再び会えるという保証はどこにもない。従って一期一会は、『会った時が別れの時』となる。果たしてどれだけの人が出逢った多くの人達と、一期一会の覚悟で出逢いを持つことができただろうか。私自身会社員時代、その後創業し会計事務所を中心にしての会社を経営し生きていく過程において、何度もやめたいと思ったことや、ああ、もういやだ、とすべてを投げ出してしまいたいときがあった。しかし、そこで投げ出したら、おしまいで済む。辛いから投げ出す、疲れたから放り出す、そんな姿勢では大した仕事も大した事業もできるものではない。こんなことはわかってはいるのに、多くの人が、できない、やれない、もうだめだ。と挫折して行く。苦しいからである。辛いやからである。苦しさを、辛さと戦い、逃げていく、敗れていくのである。過去、私はさまざまなビジネスマンの昇降、栄転左遷、多くの企業の興亡、栄枯盛衰を

見て来た。あんないい企業が・・・、あんな立派な人が・・・、複雑な思いで、その蹉跌を見送ってきた。どんな企業にも、どんな人間にもつまづきはあつた。つまづいて立ちあがるのと、つまづいて倒れ、立ちあがらないのとの差は紙一重である。人は問題が起るとその問題を避け逃げる人と、その解決を一日延ばしにする人と、逃げないで真正面からその問題に對峙し、その問題を解決するための行動を起す人とに分かれる。私はこのような場合、問題解決のためのチャート、TACT法を取り出し問題の分析と解決の為の参考図書、文献、解決に向けて有益な助言や具体的に力を貸して頂ける人脈等をリストアップし、時間軸で行動を開始する。

二・出逢いを人脈にする極意。
成功者は成功する特性、成功哲学を身につけていく。その一つに素晴らしい人脈がある。成功者は常人から見たら氣遣いかと思ふほどの熱い情熱と熱意、執着心。誰にも負けないこれでもかと言う位の努力。迅速な実践行動力。粘り強い何が何でもやりあげると言う岩をも通す貫徹力がある。このようなポジティブな人間は、前向きな求道心がある。互いに響き合うものがあり、若い無名の時代から、日本の政治や経済を動かすような人々と知り合い、互いに触発し合いながら共に成長して行く。

しかし、多くの人は互いに引き合うものもなく、折角の人と人との出逢いを活かすことができず行きずりの人で終る。出逢いを人脈にまでする極意は、テクニクではない。打算で相手を利用しようとして近づいても相手は見事な嗅覚でこれをかぎ分ける。まず『自分自身を鍛え

本物の人格と実力を持った自分自身を作ることである』。そのためには精一杯勉強をし実力をつけねばいけない。いくら調子が良くなっても決して慢心をしない。謙虚で誠実で、礼儀正しく、自己中心的発想から脱却し『利他』真に相手の幸せを願う人格を身につける必要がある。それであつて言うべきことは言いやる。相手にとって付き合うだけの価値ある常にポジティブな自分である必要がある。三・『愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』。この言葉はドイツの鉄血宰相ビスマルクの有名な言葉である。『愚者は自分で失敗し初めて失敗の原因に氣付き、同じ失敗を繰り返さないようにしようとするが、賢者は歴史や過去の他人の失敗から同じ失敗をしないように学び行動をする』。素晴らしい本物の出逢いと人脈、多くの師のお教え、立居振るまいを見て自分のものとする。また、色々な人と逢い行動を観て、話しを聞き、本も読む。その瞬間瞬間は生涯に二度と訪れない大切な時、機会だととらえ、そこから何かを吸収する。正しいこと、正しくないことを判別し、真似るべきこと、真似てはいけないことを明確にし、メモをする習慣を身につけ、自らのソフトウェアー、行動習慣に定着させる。互いに同時期に生きた人間同士として一度しかない人生を素晴らしいものにして行くのではありませぬか！まさにあらゆる事象、出逢いは『われ以外、皆わが師』である。

日々の経営上でお困りごとは何なりと当事務所にご相談ください。貴社の益々のご発展と皆様のご健勝並びにご多幸を心より祈念申し上げます。